

セコムグループ2030年ビジョン

「安全・安心・快適・便利」な社会の実現に向けて策定した「セコムグループ2030年ビジョン」の取り組みを加速しています。

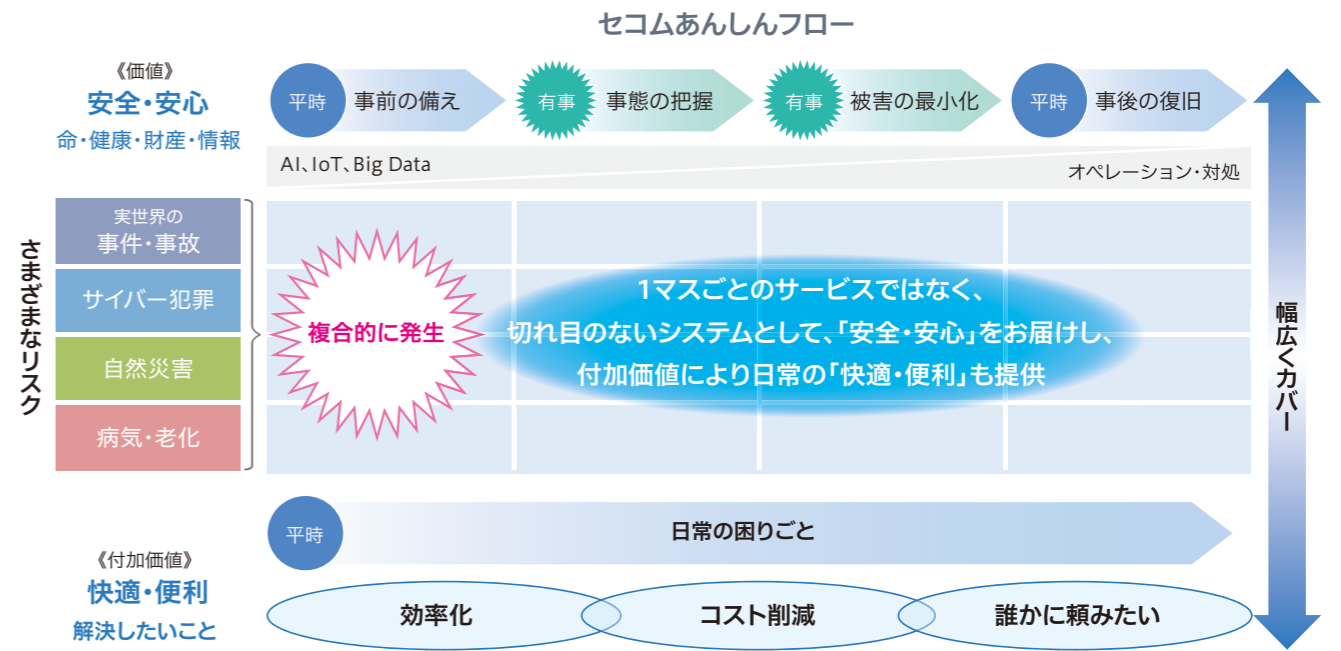
「あんしんプラットフォーム」構想

セコムは、2017年5月に策定した「セコムグループ2030年ビジョン」のもとに、“いつでも・どこでも・誰にとっても・切れ目のない安心”を提供する「あんしんプラットフォーム」構想の実現をめざしています。「あんしんプラットフォーム」とは、セコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、セコムと想いを共にする産・官・学などのパートナーが参加して、技術や知識を持ち寄り、暮らしや社会に安心を提供する社会インフラのことで



企業活動や日常生活で、事件や事故など“想定外の事態”が起きると、日常の流れが止まり、生産性が大幅に低下します。加えて、その被害が大きいほど、復旧までの時間を要します。「事件・事故」「サイバー犯罪」「自然災害」「病気・老化」といったリスクに対して、平時は「事前の備え」を怠らず、有事には「事態の把握」と「被害の最小化」に努め、「事後の復旧」を迅速に行えば、安心して生活することができます。セコムは、これら4つの要素を「セコムあんしんフロー」と定め、あらゆるリスクに対して“切れ目のない安心”を提供できるように、サービスやシステムを進化させています。

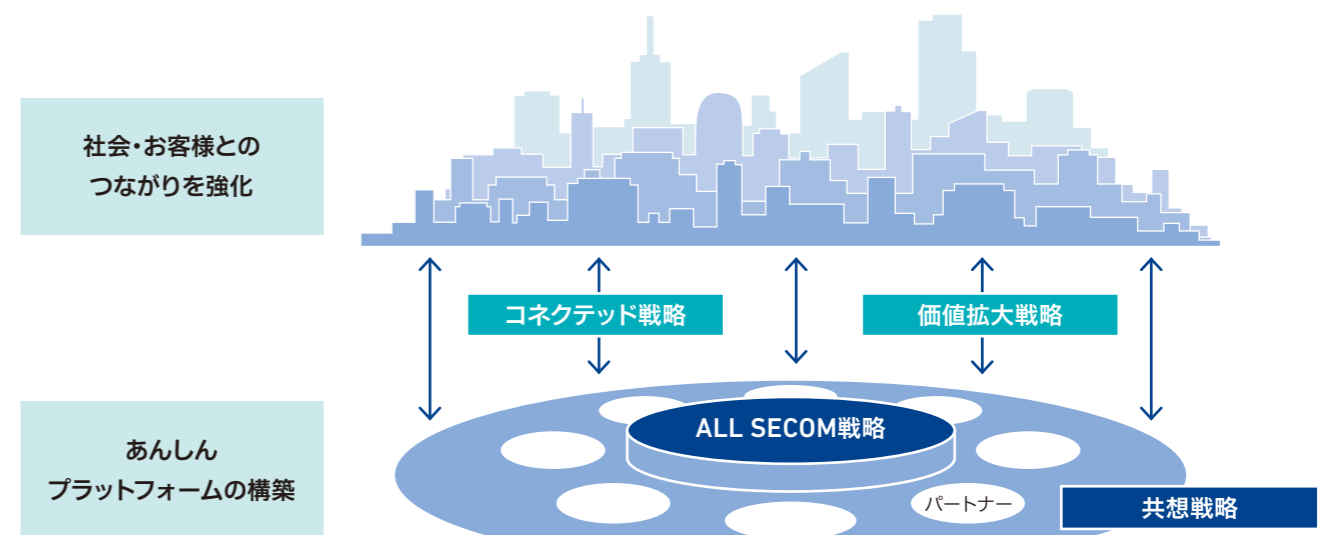
「あんしんプラットフォーム」構想で実現をめざすサービス概念図



「あんしんプラットフォーム」構想実現のための戦略

セコムでは、「あんしんプラットフォーム」を構築するために、グループの総力を結集して相乗効果を生み出す「ALL SECOM」戦略や、セコムと想いを共にするパートナーが参画して新たな価値を創出するオープンイノベーション「共想」戦略を推進しています。さらに、最新の情報技術を活

用したビッグデータ解析により、お客様の潜在ニーズを見いだして、つながりを増やしていく「コネクテッド」戦略や、日常のお困りごとに、サービスの付加価値として快適・便利なサービスを提供する「価値拡大」戦略を展開しています。



2023年3月期を一里塚としたロードマップ

2018年5月、セコムは2030年までの方向性を明確に示した「セコムグループ2030年ビジョン」に到達するために、今何をすべきかを明確にし、2023年3月期を一里塚とした「セコムグループ ロードマップ2022」を策定しました。セコムは、変化の激しい社会において「テクノロジーの進化」と「労働力人口の減少」への対応を優先課題と位置づけ、各課題から高まるニーズを先取りし、事業機会につなげ、意欲的に取り組んでいます。

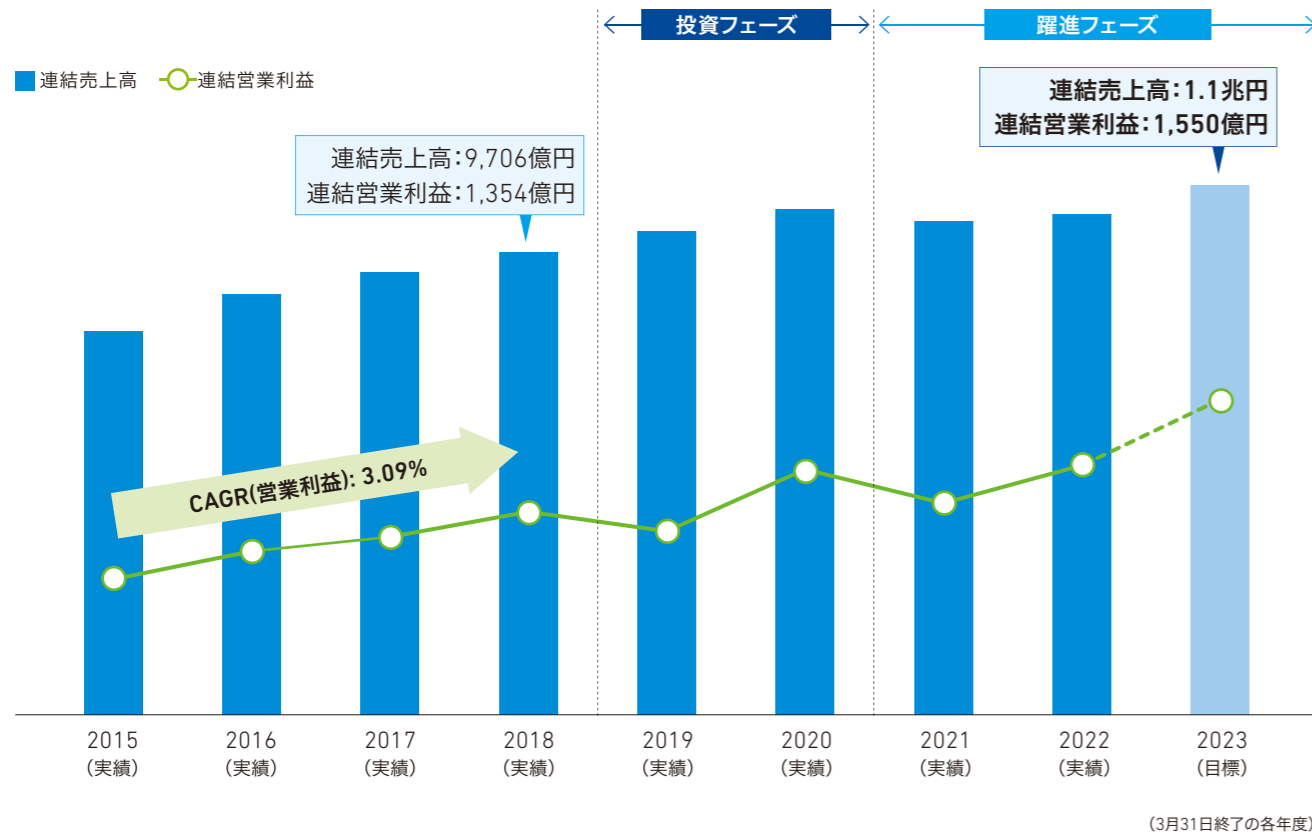
セコムが新たな価値を創造するサービスイノベーションに挑むのは、「提供できるものを売る」という発想ではなく「社会の持続的成長に必要なものは何か」という、一歩先を見据えた発想でサービスを創出したいというアプローチによるものです。

社会では、「テクノロジーの進化」に伴い、IoTサービスの広がり、ドローンやロボットの利用拡大、無人店舗やキャッシュレス決済の増加、スマートホームの普及などにより、

セコムグループ ロードマップ2022

ご参考までに、日本会計基準による2023年3月期の業績目標を以下に記載します。

連結売上高 **1.1兆円** 連結営業利益 **1,550億円** ROE **8%超** 配当性向 **40%台前半**を目安



フィジカルとサイバーを融合した「つながる社会のセキュリティ」ニーズが高まっています。また、「労働力人口の減少」を背景に企業が非中核業務を外部に委託したいニーズ、共働きの増加に伴う高齢者や子どもの見守りなど「誰かに頼みたい」需要が増加しています。

コロナ禍においては、さまざまな分野で急速なデジタル化やICTの活用が進むなどの大きな変化が見られています。セコムは、このような社会変革における新たなニーズに対しても、「安全・安心・快適・便利」なサービスの創出を通じて、社会課題の解決に寄与していきたいと考えています。

持続的成長に向けた戦略的投資

セコムは、「つながる社会のセキュリティ」や「誰かに頼みたい」需要に応えるために、自己変革(SECOM Transformation)をすることが必要と認識し、システムと人への投資に取り組んでいます。システム投資においては、サービスのスピードアップや事務処理能力の向上など、業務運営の大幅な効率化を図るため、事務系ITシステムの刷新を進めています。基本方針が固まり、数年かけて順次リリースしていく予定です。また、業務の精度向上と効率化に効果があるAI/IoT、RPA*

に投資し、生産性の向上を図っています。さらに、「テクノロジーの進化」と「労働力人口の減少」に対応し、最新技術を導入した新たなサービス・商品の開発と同時に、ご契約先のシステム機器を新サービスが利用できる機能を搭載した製品に更新する投資を進めています。

人への投資は、特にIT分野やグローバルビジネスなどで必要な専門知識と経験を持つ人材の採用・育成に注力しています。

*RPA(Robotic Process Automation):これまで人間が行ってきたパソコン操作などの業務をソフトウェアのロボットにより自動化するもの

「セコムグループ ロードマップ2022」の最終年度

「セコムグループ ロードマップ2022」の最終年度も、具体的な重点施策として進めている「見守りサービスの拡充」「海外事業の強化」「BPO・ICT事業の強化」「生産性向上」の4つに引き続き取り組んでいきます。

セコムは、ご契約先に設置した防犯センサーが検知した情報を蓄積、分析、可視化した「クラウド型・インタラクティブ型」サービスの提供を始めていますが、センシング技術は目を見張る速さで進化しており、オープンイノベーションのさらなる拡充により、テクノロジーを活用した新サービスの開発を一層加速させていきます。

先行き不透明な経済環境下ではありますが、セコムはこ

れらの必要な先行投資を着実に実行していくことにより、中長期的に大きな差が出ると考えています。

さらに、M&Aや資本提携は、今後のセコムの事業を成長させる有効な選択肢と位置づけ、国内外のフィジカルセキュリティ、サイバーセキュリティ、BPO・ICT、ヘルスケアの各分野と優れた技術力を保有するベンチャー企業を投資対象に引き続き案件の検討に注力してまいります。

「セコムグループ ロードマップ2022」の最終年度も2030年ビジョン実現に向けて、収益拡大や生産性向上を図る投資を実行し、企業価値の向上をめざします。